

鳥取県智頭町 早わかり便利ノート



列車

- 大坂—智頭急行—智頭駅 約2時間
- 京都—智頭急行—智頭駅 約2時間30分
- 岡山—智頭線—智頭駅 約1時間40分
- 鳥取—因美線—智頭駅 約50分
- 広島—山陽本線(新幹線)—姫路駅 約2時間
- 智頭急行—智頭駅

バス

- 日本交通特急バス(大坂・梅田より)
- 智頭 約2時間30分
- 日本交通特急バス(広島より)
- 智頭 約4時間

自動車

- 大坂—中国自動車道、佐用IC—R373—智頭 約2時間30分
- 岡山—R53—智頭 約2時間10分
- 鳥取—R53—智頭 約50分
- 広島—中国自動車道、津山IC—R53—智頭 約3時間30分

飛行機

- 東京——鳥取空港 約1時間20分
- 名古屋——鳥取空港 約55分
- 鳥取空港—自動車—智頭 約50分

智頭町総合案内所

物産・観光情報は
このガイドを手に町歩きを。



智頭町の観光はここからはじまる。配付している観光ガイドやマップも充実。町内の物産の展示コーナーがあるので、ここで目星を付けておこう。トイレ休憩や一服したい。時にもぜひ立ち寄りたい。



智頭町のなりたち

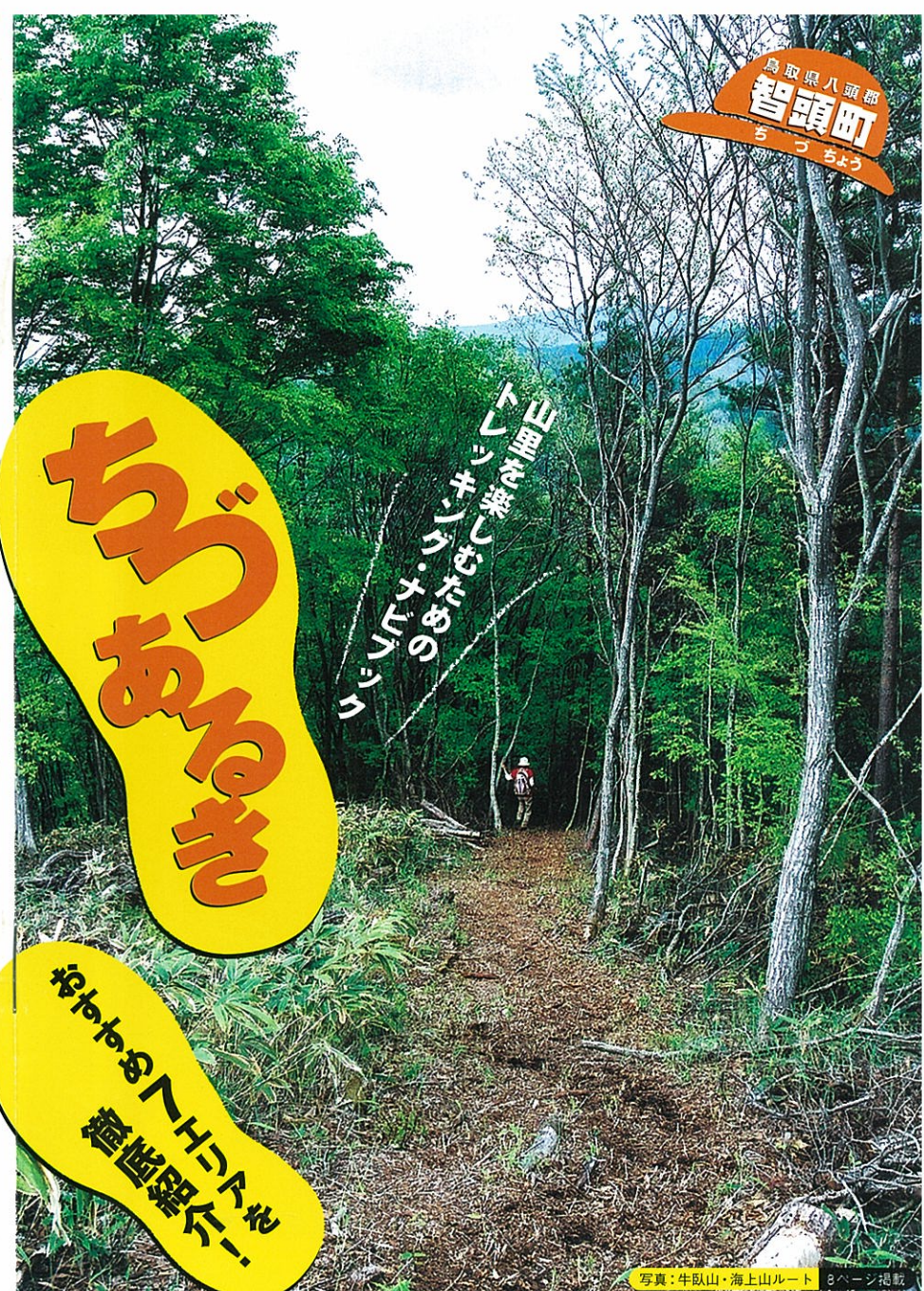
智頭町は、鳥取県の東南部に位置し、岡山県に接する界隈地帯です。町の周囲は千メートル級の山々が連なり、町面積の93%を山林が占める。その山脈を縫って流れる川が智頭で合流し、千代川になって日本海に注いでいる。気候は、日本海側気候に属し、冬に雪が多いのが特徴。古くから因幡(鳥取県)と畿内(京大阪)を結ぶ街道の宿場として栄えた町で、鳥取藩主の参勤交代の際に上級武士の宿泊所となった「石谷家住宅」(国登録有形文化財)など歴史を感じさせる建造物や、日本一の農村の原風景を留めている「板井原集落」には、茅葺き住宅をはじめとする伝統的町制を施行し、昭和10年智頭町、山形村、郡岐村、土師村が合併し、さらに翌11年に富沢村、昭和29年に山郷村と合併して現在に至る。

智頭町役場

鳥取県八頭郡智頭町大字智頭2072-1 〒689-1402
電話 0858-75-4111(代) E-mail chizu@town.chizu.tottori.jp
http://www.town.chizu.tottori.jp/

智頭町総合案内所(智頭町観光協会)

鳥取県八頭郡智頭町大字智頭2067 〒689-1402
電話 0858-76-1111 E-mail c-kanko@abeam.ocn.ne.jp
http://www.town.chizu.tottori.jp/home/kanko/



山里 ぶらり旅

巻頭特集

巻頭特集「山里ぶらり旅」	2
智頭町エリアマップ	6
板井原集落・牛臥山・海上山エリア	8
竈山・岩神城跡エリア	12
芦津溪谷散策エリア	16
智頭往来エリア	20
八河谷～栲原中国自然歩道・鳴滝エリア	26
新田・大倉山エリア	29
那岐山登山エリア	32

板井原集落・牛臥山 海上山エリア

8ページ
板井原集落／JR智頭駅から車で約12分

山里に生きる小道

智頭往来エリア 24ページ

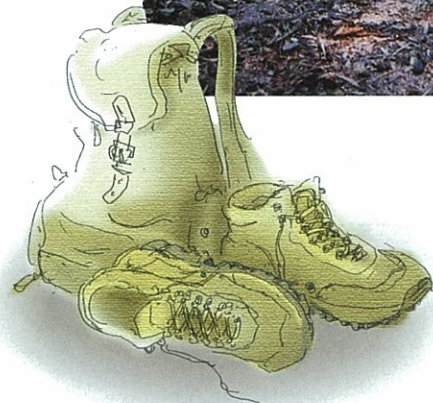
樽見集落の小道／JR智頭駅から車で約13分

道を見れば、そこに喜らす人々が見えてくる。何もなかった野や林に道が引かれ、人とともに姿を変えていく。また、ある道は何世代もの間、道幅ひとつ変えることなく同じ顔を持ち続ける。人に踏まれ、歴史を重ね、道は生き続けている。

板井原集落の『六尺道』は、その名の通り幅2m足らずの狭い道。懐かしい故郷の風景だ



板井原集落周辺
六尺道／板井原駐車場から徒歩約1分



鳥取砂丘を育んだ源流

山と里をつなぐ川の
流れは、田畑をう
るおし、人々の暮らしを
支えている。また、故郷を
思い描く時、人の心には、
いつも川があり、人々の
重ねてきた歴史の中には、
絶えることのない豊かな
川の流れがあった。

芦津溪谷散策エリア 16ページ

芦津溪谷／JR智頭駅から車で約30分

竜山・岩神城跡エリア 12ページ
ナメラ谷の杉林／JR智頭駅から車で約7分

山里を守り育む森林

緑の豊かさが伝わる森林の風景。
『杉のまち』智頭町の名のとおり、
杉林が多いように思えるが、実は、ブナ
やマツ、ミズナラ、ヒノキなど非常に多
彩で、森の奥深さを感じられる。

智頭町トレッキング全7エリア

鳥取市

八頭町

若桜町

龍山・岩神
城跡エリア
12ページ

板井原集落・牛臥山
海上山エリア
8ページ

八河谷～柿原
中国自然歩道
鳴滝エリア
26ページ

物見峠

「日本百名峠」(井出孫六編)で紹介された。毛利元就が尼子勢を追出した後、峠に物見のための番所を置いたことからこう呼ばれるようになったといわれる。

寄道

22ページ

23ページ

智頭往来エリア

中国自然歩道
芦津源流エリア
16ページ

24ページ

25ページ

新田・大倉山エリア
29ページ

那岐山登山エリア
32ページ

登山の心得五ヶ条

- ① 山頂は天候が変わりやすいので防寒具の用意を。
- ② 植物の採取はしない。
- ③ むやみに遊歩道、林道以外に立ち入らない。
- ④ たき火禁止、火気注意。
- ⑤ 自分のゴミは持ち帰る。

トレッキングを楽しむヒント集

- ① 歩きなれた靴が一番。
 - ② 水と計画は余裕を持って。
 - ③ 念のため雨具を持って。
 - ④ 植物図鑑を持って歩こう。
 - ⑤ 珍しい植物に会えるかも？
- 一緒に歩くのもおすすめ。
※裏面参照

牛臥山／板井原駐車場から徒歩約1時間15分



うしぶせやま

牛臥山 (728m)

牛が寝そべった形に似ていることから『牛臥山』と名付けられた。春には山頂付近の桜の開花、秋には麓の『諏訪神社』の紅葉など四季を通して見どころが多い。山頂からは智頭宿周辺が一望できる。登山ルートが多いので幅広く楽しめる。

常磐岩／板井原駐車場から徒歩約40分



とぎわいわ

常磐岩と洞窟

牛臥山の山頂手前に智頭の町を見下ろすように佇む巨岩がある。下には、しゃがんで進むのが精一杯の洞窟があり、武蔵坊弁慶の伝説も伝わる。

発見



噂通り常磐岩の洞窟には「こうもり」が棲んでいた！

気軽な散策道だが、生い茂った広葉樹のトンネルを抜けたり、巨岩を避けたりと楽しみが多いコースだ



板井原集落／JR智頭駅から車で約12分

板井原集落

平家落人の伝説が残り、昭和30年代の山村の「原風景」を今に残す集落。村中の道路は六尺道と呼ばれる車も通れない狭い道。ほとんどの家屋が築50年以上で、中には築250年をこえる建物もある。伝統的建造物群保存地区に選ばれている。



水車で精米した地元のお米を、かまどで炊いたご飯が食べられる「火間土」。日曜のみ
Tel: 0858-75-1229

おにぎり

味噌と醤油ダレの焼きおにぎり2つに、梅干しと漬物が付く。ポイントは、食欲をそそる竹の皮の香りと竹で作った水筒。

図総合案内所(裏表紙)



特産品ガイド 板井原ごうこ：板井原大根を天日干して昔ながらの製法で漬込んだ幻の味。図総合案内所(裏表紙)

六体地藏／板井原集落内

初心者も安心

中級者に最適

板井原集落・牛臥山 海上山エリア

山々に囲まれた隠れ里と
見晴しの良い気軽な登山道

牛臥山・海上山ルート

所要時間：約3時間

板井原・浅見尾根ルート

所要時間：約2時間30分

牛臥山公園のやまごや風車、休憩所にはトイレもあり、一息つくには最適。



牛臥山公園の休憩所／智頭宿から車で約10分
徒歩約1時間30分

峠の地藏／板井原から徒歩約15分

板井原集落・牛臥山 海上山エリア周辺

牛臥山・海上山ルート

所要時間：約3時間

板井原・浅見尾根ルート

所要時間：約2時間30分



ポイント

種ヶホキ周辺
21ページ掲載

とざわい
常磐岩の洞窟
常磐岩の下にぱかりと
洞窟が口を開いている。
しゃがんで進むのが精一
杯だが奥は深い。中には
コウモリが棲んでいる。

板井原集落

日本の山村集落の原風景を
残し、昭和30年代から時間が
止まったような隠れ里。中に
は築250年をこえるものも。

板井原・
浅見尾根ルート

参 牛臥山・海上山ルート (所要時間：約3時間)
考 智頭駅一車で約12分(マイクロバスまで通行可)＝
タ 板井原入口駐車場＝徒歩約15分＝古峠＝徒歩約35
イ 分＝常磐岩＝徒歩約15分＝牛臥山山頂＝徒歩約35
ム 分＝海上山山頂＝徒歩約10分＝郷原分岐点展望広
場＝徒歩約20分＝峠地蔵分岐点＝徒歩約45分＝板
井原集落＝徒歩約5分＝板井原入口駐車場
板井原・浅見尾根ルート (所要時間：約2時間30分)
智頭駅一車で約12分＝板井原入口駐車場＝徒歩約5
分＝板井原集落＝徒歩約50分＝峠地蔵分岐点＝徒
歩約30分＝展望広場＝徒歩約65分＝板井原集落

【周辺ルート】

牛臥山登山口＝「下町」バス停＝徒歩約3分
＝登山口＝徒歩約50分＝牛臥山公園＝徒歩
約60分＝牛臥山山頂、小学校前「バス停
＝徒歩約90分(車で約10分)＝牛臥山公園
郷原ルート＝「毛谷」バス停＝徒歩約5分＝
登山口＝徒歩約45分＝さくら広場＝徒歩
約50分＝峠地蔵分岐点、さくら広場＝徒歩
約40分＝郷原分岐点展望広場

牛臥山・
海上山ルート

郷原ルート

八河谷・鳴滝へ
28ページ掲載

芦津源流エリアへ
18ページ掲載

種ヶ坂・毛谷周辺
23ページ掲載

国道373号
生用IC・姫路市

- 目標ポイント
- ① 案内看板
- 👁 見どころ
- 🚻 トイレ
- 🌳 樹木や草花
- 🅑 駐車場
- 🛣 道標・地蔵
- 🅑 国道
- 🅑 県道
- 🅑 絶景ポイント
- 🅑 県道
- 🅑 アクセスガイド

林道箆山線駐車場から徒歩約1時間10分



箆山 (905m)

賀露港(鳥取市)の漁師が目印にしていた山だけあり、天候が良ければ日本海が望める。5月中～下旬には、山頂一帯が満開のツツジでピンク色に染まる。尾根やつづら折れなどコースが多く歩き方に応じて楽しめる。神社、古寺など周辺の見どころも豊富。

初心者も安心

中級者に最適

上級者も納得

基本コース所要時間
約4時間30分



箆山山頂手前

箆山・岩神城跡エリア

見晴らしのよい低木の山頂と
ふもとの神社、古寺が見どころ



箆山山頂直前に立つ無線塔。さすがに見晴しが良く、撮影にもぴったり。無線塔も1枚押さえておきたい。



無線塔／箆山山頂数百メートル手前

ナメラ谷作業道／物地(そうち)集落から徒歩約20分



箆山の中腹に出現するというミステリーサークル“蛇の輪”には、その名の通りヘビの伝説が残る。恋に破れた娘の魂がヘビとなって住み着き、大蛇が輪になったような跡を山肌に残すのだと伝えられる。山の開発が進むにつれ、姿を消していったのだとか。

伝説
蛇の輪



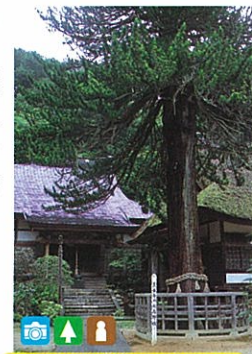
急勾配登山道合流点から林道箆山線まで徒歩約40分

裏ネタ ツチノコ騒動 昭和34年

箆山のふもとドウシキ河原で、ツチノコが目撃されたのは昭和34年6月の話。結出で探し出し、又棒で首を押さえ付けたが、ゆうに3mは跳躍して逃げたとか。体長は約40cmで、小蛇のようなずんぐりとした体にアオダイショウのような顔だったという。一時、ツチノコ騒動は大変な話題になったそう。

豊乗寺 (真言宗)

国宝「絹本着色普賢菩薩像」(東京国立博物館に出品)や重要文化財を有する古寺。境内には樹齢600年の大杉が3本ある。



豊乗寺／惣地集落から徒歩約15分

写真左: 箆山山頂付近から直下の『ナメラ谷作業道』まで一気にかけて下りる尾根つたいの登山道。やや上級者向きだが、急斜面をヤバカシながらの野趣たっぷりの“本当の山歩き”が楽しめる。



岩神城跡から続く登山道には、所々に人の手で切り出したような四角い石が見られる。途中に古い炭焼窯跡などもあり、ロマンが感じ立てられる。

牛つなぎの木

昔は、牛に草を与えるため箆山中腹辺りまで牛を連れて来ていたといい、この木に綱をかけたのだとか。根元に数本シワがあり、綱の跡のようにも見える？

牛つなぎの木／林道箆山線駐車場から徒歩約25分



特産品ガイド 乗豊寺見学：あらかじめ電話でお願いしていただければ見学することもできます。Tel: 0858-75-0194

トロッコ道石垣／遊歩道入口から徒歩約10分



トロッコ線路跡／遊歩道入口から徒歩約30分

今は無きトロッコ道

昭和40年頃まで伐採した木を切り出すためにトロッコが使用されていたが、今はわずかに、その面影が残されているのみ。石垣は90度近い傾斜で1つ1つ手積みされ、その美しさはまさに芸術品。

小豆転がし／遊歩道入口から徒歩約10分



昔、ここから谷に小豆を転がすと一粒も無くなることなく、一升までに受けることができたと言われる。

芦津溪谷源流の造形美

芦津源流コース沿いを中心に、芦津溪谷には無数の滝が点在する。四季で刻々と変化する雄大な山々のコントラストと相まって、大自然の造形美を見せる。

知識

智頭町内では巨木調査が行われており、写真のように巨木には番号が振られている。町役場に行けば一覧表がある。
智頭町役場 Tel: 0858-75-4111 (代)



ニツの滝／源流コース入口から徒歩約50分



三滝／遊歩道入口から徒歩約15分

芦津溪谷の巨木たち

芦津溪谷にはブナ・杉・コナラなどさまざまな巨木が点在している。その出で立ちはまるで溪谷に住む主のよう。

知識

芦津溪谷では、季節ごとに様々な植物と出会うことができる。その代表的なものをご紹介します。



←マムシグサ

茎にマムシの皮のような模様がある。根をポットン便所に入ると虫がわかず、ウジゴロシとして地元のの人に使われていたそう。



←ザゼンソウ

仏炎苞に抱かれた花序の形が、座禪を組む僧侶を連想させることから命名された。芦津の一角には群生地帯もある。



←オタカラコウ

とても香りが良く、地元の方は、土用の丑の日にお風呂に入れるという。



←ダイモンジソウ

花の形が「大」の字に見える。ユキノシタ科の植物で白くて、可憐な花を咲かせる。



←ミズメ

枝を折ると、サロンの臭いがする。

寄り道ガイド みたき園：曲炉裏のある部屋や屋外で山菜料理が楽しめる。4～12月第1日曜まで開園。Tel: 0858-75-3665

芦津溪谷散策エリア

ファミリー向き

初心者に最適

すばらしい溪谷美が手軽に楽しめるコース

中国自然歩道(三滝遊歩道ルート)

所要時間: 約45分(片道)

三滝ダム周辺ルート

所要時間: 約35分

芦津源流ルート

所要時間: 約50分(片道)



三滝ダム湖／遊歩道入口から約40分



烏帽子(えぼし)岩／遊歩道入口から約5分



芦津溪谷散策エリア

中国自然歩道ルート 所要時間：約45分(片道)

三滝ダム周辺ルート 所要時間：約35分

芦津源流ルート 所要時間：約50分(片道)

中国自然歩道ルート (所要時間：約45分(片道))
 智頭駅＝車で約25分＝遊歩道入口＝徒歩約20分＝三滝＝徒歩約20分＝三滝ダム＝徒歩約5分＝公共トイレ

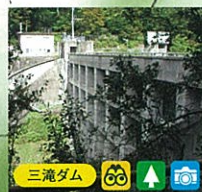
三滝ダム周辺ルート (所要時間：約35分)
 公共トイレ＝徒歩約15分＝つり橋＝徒歩約15分＝三滝ダム＝徒歩約5分＝公共トイレ

芦津源流ルート (所要時間：約50分(片道))
 公共トイレ＝徒歩約50分＝ニツの滝

※芦津バス停＝徒歩約1時間15分＝遊歩道入口



三滝神社／公共トイレから約25分



三滝ダム

ポイント
 全ルートを通じて中国自然歩道として整備され、散策がてらのハイキングはおすすめ。また近くにはキャンプ場もあり、山菜狩り、溪流釣りなど、アウトドアが存分に楽しめる。

中国自然歩道ルートは切り立った自然のコントラストが最高の溪谷に沿った遊歩道を歩く。間近で見る三滝は眺めが素晴らしい。三滝ダム周辺ルートでは新緑や紅葉が湖面に映り、大変美しい。芦津源流ルートでは、花崗岩の崖や巨岩や急流淵があり、源流に触れることもできる。西日本屈指といわれる見事な溪谷美を楽しめる。

特に紅葉は格別。
 四季を通じて、その雄大な溪谷美を気軽に楽しめる。

鳥取砂丘を育んだ源流
 厳しい自然が織りなす景観は
 国立公園にも指定されており、
 四季を通じて、その雄大な
 溪谷美を気軽に楽しめる。





初心者も安心

ファミリー向き

国登録有形文化財塩屋出店／智頭駅から徒歩約10分

智頭往来エリア

文化庁選定「歴史の道百選」・遊歩百選・美しい日本の「歩きたくなるみち」500選に選定

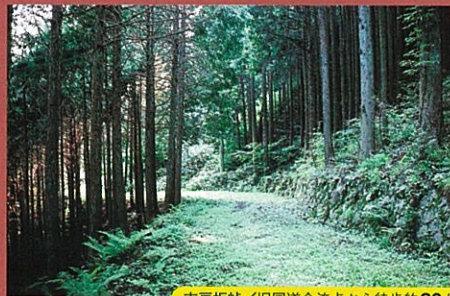
参勤交代で栄えた宿場町と旧街道の峠道



石谷家住宅／智頭駅から徒歩約13分

石谷家住宅（国登録有形文化財）

江戸時代には大庄屋も務めたこともある「石谷家」。約40の部屋と広い庭を有し、大規模（敷地3000坪）な近代和風建築として評価が高い。（見学可、水曜休）



志戸坂峠／旧国道合流点から徒歩約20分

篠ヶホキ周辺

所要時間：約1時間30分

智頭宿周辺

宿内散策所要時間：約2時間

篠坂・毛谷周辺

所要時間：約1時間15分

中原・樽見周辺

所要時間：約50分

駒帰・志戸坂峠

所要時間：約1時間30分

参 篠ヶホキ周辺

考 智頭駅＝車で約5分＝智頭トンネル（北側入口）＝徒歩約1時間＝岩鼻神社入口石碑＝徒歩約30分＝関屋番所跡（智頭宿）

でんしょうかん

伝承館

ちょっとした休憩に使えるポイント。トイレ、東屋、駐車場がある。

往時からさほど様子が変わっていない小集落。山裾に沿って古い道をたどってみたい。



篠ヶホキ周辺

所要時間：約1時間30分

一石五輪群

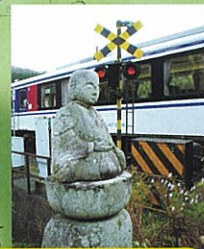
湯屋集落には、ひとつの石で作った、珍しい五輪群がある。

一石五輪群

智頭宿周辺

22ページに続く

国道53号～智頭駅



中地藏／市瀬バス停から徒歩5分

御立山の中腹を巡る約1kmの旧道「篠ヶホキ」。昔ながらの情景を楽しみながら歩ける。藩が崩壊防止に植えた椿や、六地藏などが残る。「東海道処々／難所」イェドモ、カカル危険の処ナシ」と伝わる古くからの難所だった。

茶屋土居

標高150m

大日如来碑

六地藏

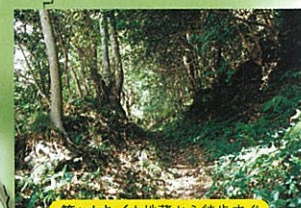
御立山

智頭トンネル

地蔵

標高200m

篠ヶホキ



篠ヶホキ／六地藏から徒歩すぐ



メモ

×

智頭トンネル

地蔵

標高200m

篠ヶホキ

六地藏

御立山

茶屋土居

標高150m

大日如来碑

六地藏

御立山

智頭トンネル

地蔵

標高200m

篠ヶホキ

- 目標ポイント
- 見どころ
- ▲ 樹木や草花
- ▲ 道標・地藏
- ▲ 絶景ポイント
- ▲ アクセシビリティ
- ① 案内看板
- ② トイレ
- ③ 駐車場
- ④ 国道
- ⑤ 県道

智頭宿周辺

宿内散策所要時間：約2時間



酒蔵の裏道(清水通り)／智頭駅から徒歩約13分

食事ならこのエリアで
JR智頭駅から智頭宿エリアには、お食事どころが集中しているので昼食やお茶をするにも便利。また、地元の特産品など、お土産探しにもおすすめ。

林道牛臥線／牛臥公園
牛臥公園は、林道の両側に約10分

板井原・牛臥山・海上山エリア
10ページに続く

篠ヶホキ周辺
21ページに続く

中国道373号／西栗倉村
中国道373号は、西栗倉村

篠坂～郷原
23ページに続く

約1.3kmの桜並木、水辺に公園もある。

国道53号／津山市
奈義町・津山市

菰山エリア
14ページに続く

メ

篠坂～毛谷周辺

所要時間：約1時間15分
馬渡瀬橋 小見原

中瀬・梅見
24ページに続く

芦津溪谷
18ページに続く

八河谷・綾木峠
28ページに続く

海上山・峠地蔵
10ページに続く

参 篠坂・毛谷周辺
考 杉神社前バス停＝徒歩5分＝篠坂ルート入口
タ 智頭駅＝車で約3分＝篠坂ルート入口
イ 篠坂ルート入口＝徒歩約30分＝どうだんつじ
ム 公園＝徒歩約45分＝無辺地蔵(馬渡瀬橋)

隠岐を脱出した後醍醐天皇が逗留したという伝説が残る



南妙法蓮華経／郷原バス停から徒歩5分

毛谷の街道／写真は六地藏の手前

未整備区間
篠坂周辺の往來は国道373号に平行しながら、山裾に続く。

智頭宿周辺
22ページに続く

- 目標ポイント
- ① 案内看板
- 🔍 見どころ
- 🌳 樹木や草花
- ♿ トイレ
- 🚗 駐車場
- 🗺️ 道標・地蔵
- 🛣️ 国道
- 🏞️ 絶景ポイント
- 📶 県道
- 👉 アクセスガイド

中原・樽見周辺

所要時間：約50分



魚の棚／福原橋から徒歩で約7分

参 中原・樽見周辺
考 無辺地蔵(篠坂・毛谷周辺)＝徒歩20分＝智頭急行山郷駅。智頭駅＝車で約10分＝智頭急行山郷駅。智頭急行山郷駅＝徒歩約25分＝福原橋＝徒歩約25分＝副ヶ瀧

☐
☐
☐
☐
☐
☐

魚の棚
約280年前の江戸時代に書かれた文献に「絶景アリ」と紹介された風景は、今もほとんど変わっていない。

駒帰～志戸坂峠 25ページに続く

副ヶ瀧
落差50mの細い一糸の滝。旅人が都に早く上がりたい心情を詠んだ一首「けふ(今日)いなばそうの瀧山こえるなり都にかけの夢のうきはし」が歌碑となつて瀧の正面に立つ。瀧がある山の山頂には不動明王を祀る祠がある。



智頭往来／樽見橋から徒歩で約2分

中原の観音堂
元禄3年頃の建築。如意輪観音像を安置する。トイレあり。

新田・大倉山
31ページに続く

篠坂～毛谷
23ページに続く



橋を渡ってすぐを上げる

牛・馬の守護の神として親しまれる大日如来。智頭、美作一帯に多くみられる

駒帰～志戸坂峠

所要時間：約1時間30分

志戸坂峠

参勤交代で栄えた智頭往来の国境の峠。9世紀に構築された「日本後紀」などから古くより官道として利用されていたと思われる。平安時代には国守(平時範)を迎える「境迎え」の儀式も行われた。明治18年、旧道の開削工事が始まり、人力車も通う立派な道ができた。昭和10年には「志戸坂隧道」が開通し、昭和56年には、現在の新しいトンネルが開通した。

時範記(ときのかき)
平安時代に志戸坂峠を越えた人物に平時範がいる。彼は承徳2年(1098)7月に因幡(現鳥取県東部)の守に任命され、この地に赴いた。その時の様子が日記「時範記」に記されている。

境迎え(さかむかえ)
平安時代、新任の国司が京都から任地へ赴く時、国司の役人が国境まで出向いて挨拶を交し、歓迎の宴を催すこと。

向山(むこうやま)五輪群
五輪群の中央、安山岩の3基の宝印は15世紀後半から16世紀前半の様式で、それを取り巻く五輪群は16世紀後半から17世紀はじめのものを含める。

参 駒帰～志戸坂峠
考 副ヶ瀧(中原・樽見周辺)＝徒歩15分＝御茶屋跡。智頭駅＝車で約15分＝御茶屋跡。
ム 御茶屋跡＝徒歩約35分＝旧国道合流点＝徒歩約35分＝志戸坂峠＝徒歩約20分＝広場(西栗倉村)
※ 広場＝徒歩約40分＝智頭急行あわくら温泉駅

「駒降り峠に向かう麓かな」は、鳥取市出身の尾崎放哉が上京のため人力車で志戸坂峠を越え、麓に送った俳句。俳句雑誌で、この泣地蔵のことも紹介された。

「大木に隠れて雪の地蔵かな」これも尾崎放哉の詠んだ句。

御茶屋跡
参勤交代の国境として重要な駒帰には、藩主の休憩所があった。

山郷・樽見
24ページに続く



地蔵仏／御茶屋跡から徒歩で約7分

- 目標ポイント
- 🔍 見どころ
- 🌳 樹木や草花
- 🚶 道標・地蔵
- 🌄 絶景ポイント
- 🛣️ アクセスガイド
- 📍 案内看板
- 🚻 トイレ
- 🅑🅓 駐車場
- 🛣️ 国道
- 🛣️ 県道

綾木峠 (865.8m)

綾木峠は智頭町と八頭町(旧八東町)を結ぶ峠で、昔は生活道として利用されていた。以前は峠近くに鉱山があり、今もその面影を一部残す。峠周辺はコナラやブナの広葉樹林となっており、夏は緑、秋は鮮やかな紅葉を見せてくれる。晴れた日の峠からの遠景もまた格別。



綾木峠付近の広葉樹林(中国自然歩道ルート)／バス停から徒歩約55分



杉の木村

本格カナディアンログハウスでの宿泊、キャンプ、ピクニック、溪流釣などファミリーでアウトドアを満喫できる。のんびりと日常から離れてリラックスしてみたい！

杉の木茶屋では山菜定食も堪能できる他、弁当の注文も可能。わら細工づくり体験にも挑戦したい(事前予約)。

杉の木村: Tel: 0858-75-3180 (開村は4月～11月)



杉の木村カナディアンログハウス



杉の木茶屋(鳴滝ルート)／スタート地点

鳴滝

杉の木村の奥にある高さ40mの滝。滝の周辺は広葉樹木に囲まれており、とても美しい景色が満喫できる。11月上旬は紅葉が見どころ。

鳴滝に至る途中には棚田跡や木地師の墓もあり、昔がしのばれる。



木地師の墓(鳴滝ルート)／杉の木村から徒歩約10分



鳴滝(鳴滝ルート)／杉の木村から徒歩約30分

わくわく体験

八河谷薫細工体験: 昔から伝わる八河谷の文化をその手で体験してみよう。要事前予約。購入可。杉の木村まで。

特産品ガイド

柿の葉寿司: 地元の特産品。お弁当で持っていく、自然の中で食べればさらに美味しい。要事前予約。杉の木村まで。

八河谷～柿原
中国自然歩道ルート

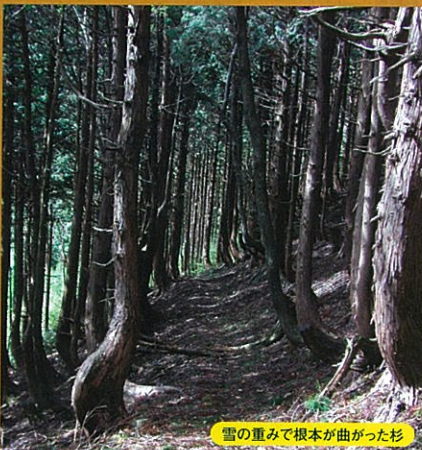
所要時間: 約2時間50分(片道)

鳴滝ルート

所要時間: 約30分(片道)

中級者に最適

ファミリー向き

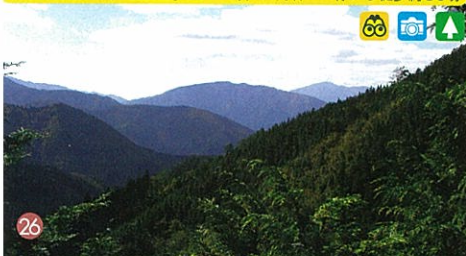


雪の重みで根本が曲がった杉

八河谷～柿原
中国自然歩道
鳴滝エリア

かつての生活道・綾木峠。
鳴滝では気軽に自然を満喫。

綾木峠付近より(中国自然歩道ルート)／八河谷バス停から徒歩約50分



八河谷～柿原中国自然歩道・鳴滝エリア

八河谷～柿原中国自然歩道ルート 所要時間：約2時間50分（片道）

鳴滝ルート 所要時間：約30分（片道）

八河谷～柿原中国自然歩道・鳴滝エリア周辺マップ

ポイント

八河谷～柿原ルートは全体的に歩きやすいコース。但し距離が長めなので無理のない計画を。標高865mの綾木峠付近は広葉樹の林で森林浴にも最適。鳴滝ルートは距離が短いので、ファミリーでも気軽に散策を楽しめるコースになっている。

かつては生活の道として踏まれ続けた綾木峠。中国自然歩道として整備されているが所々にその面影を残す。鳴滝まではその美しい木々の間に棚田跡など歴史を垣間見れる。

その昔、船岡に越えるために日常的に踏まれた峠道だった。この道を歩いて、毎日角取に通勤する人もいたという。

通行困難

八河谷～柿原中国自然歩道ルート

平家の落人伝説が伝わる

杉林に隠れて、大規模な棚田の跡が広い範囲に残る

木地師の墓が多く残る

- 目標ポイント
- 🔍 見どころ
- 🌳 樹木や草花
- 🗿 道標・地蔵
- 🏠 絶景ポイント
- 👉 アクセスガイド
- ① 案内看板
- 🚻 トイレ
- 🚗 駐車場
- 🛣 国道
- 🛣 県道

参考タイム
八河谷～柿原中国自然歩道ルート
（所要時間：約2時間50分（片道））
智頭駅＝車で約20分＝杉の木村＝徒歩約10分＝八河谷バス停＝徒歩約45分＝舗装路終了地点＝徒歩約30分＝綾木峠＝徒歩約1時間25分＝柿原集落
鳴滝ルート（所要時間：約30分（片道））
智頭駅＝車で約20分＝杉の木村＝徒歩約30分＝鳴滝
※八河谷バス停＝徒歩約10分＝杉の木村



新田～大倉山エリア

初心者にも最適

比較的易しいコース。山頂からは瀬戸内海が見えるかも？

新田～大倉山頂ルート

所要時間：約2時間40分



コース入口付近の風景／スタート付近



棚田跡／清流の里新田から徒歩約40分

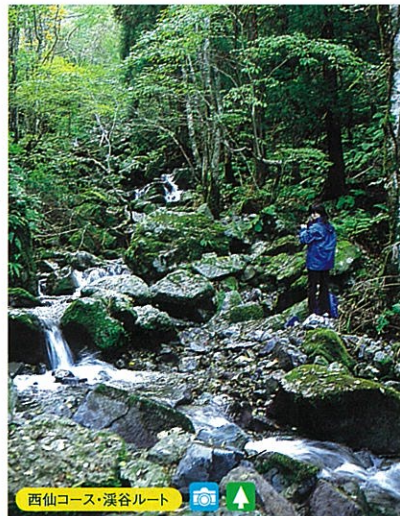
林道のコンクリートについた動物の足跡
清流の里新田から徒歩約25分



西仙コース・尾根ルート

西仙～山頂ルート

前半は沢に沿った歩きやすい道のり。730m付近で、しゃくなげの群落が見られる「尾根ルート」と、沢登りの「溪谷ルート」とに別れる。道もよく整備され、山頂までに3つの避難小屋がある。山頂手前には、ドウダンツツジも群生する。



西仙コース・溪谷ルート



避難小屋



西仙コース・溪谷ルート

信仰の山「那岐山」

伊邪那岐命と伊邪那美命の二神が降りてきたことから『那岐山』と呼ばれるようになったと伝わる。かつては、大勢の行者が那岐山に登り修行の場としていたと思われる。また、西側に伊邪那岐命、東側に伊邪那美命と刻まれた巨石もあり想像をかき立てられる。ふもとの那岐神社はもと『那岐大神』という。



山頂巨石の刻字



那岐山登山エリア

国定公園

本格的な登山コース

伊邪那岐命・伊邪那美命にゆかりの霊峰

東仙・西仙ルート

所要時間：約2時間55分

奥本～山頂ルート

所要時間：約2時間35分



西仙コース標高1000m付近トンネルのような林が続く



那岐山登山エリア

東仙・西仙ルート 約2時間55分
奥本～山頂ルート 約2時間35分

東仙・西仙ルート (所要時間: 約2時間55分)
 智頭駅＝車で約25分(マイクロバス通行可)＝
 登山口駐車場＝徒歩約20分＝山道入口＝徒歩
 約30分(溪谷・尾根ルートとも)＝避難小屋＝
 徒歩約35分＝那岐の家＝徒歩約10分＝山頂＝
 徒歩約15分＝奥本・奈義町分岐点＝徒歩約25
 分＝国有林道合流点＝徒歩約5分＝奥本コース
 分岐点＝徒歩約35分＝登山口駐車場
 ※那岐駅～登山口駐車場まで約7.5km



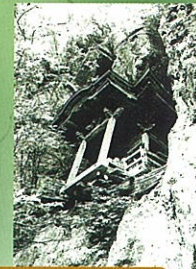
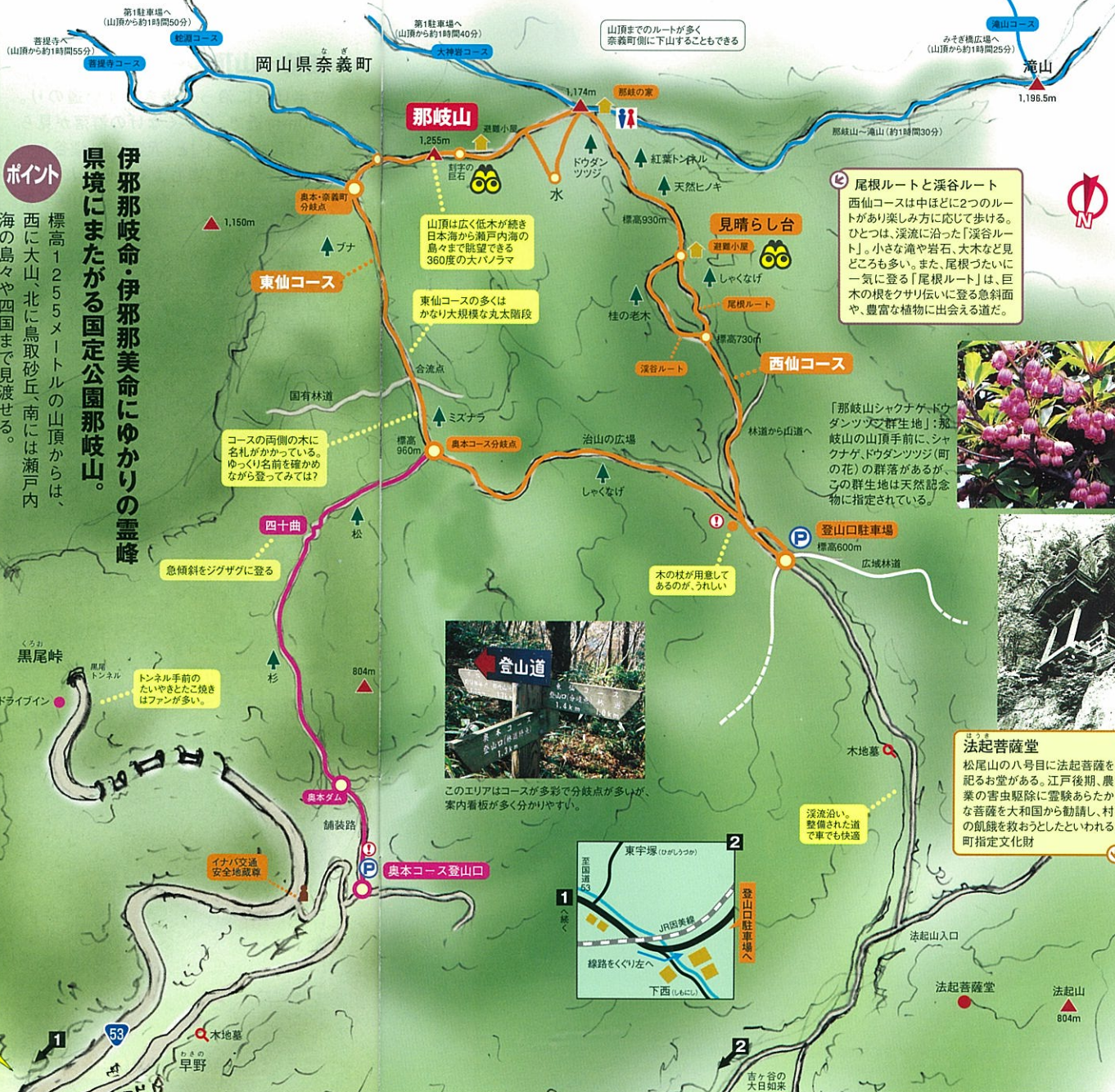
【周辺ルート】奥本～山頂ルート
 智頭駅＝車で約15分(国道53号経由)
 ＝奥山ルート登山口＝徒歩約1時間
 25分＝奥本コース分岐点＝徒歩約1
 時間10分＝山頂
 ※那岐駅～奥山ルート登山口まで早
 野集落経由2.7km(普通車通行可)

- 目標ポイント
- 🔍 見どころ
- 🌳 樹木や草花
- 📍 道標・地蔵
- 🏠 絶景ポイント
- 📋 案内看板
- 🚻 トイレ
- 🅑🅓 駐車場
- 🛣 国道
- 🛣 県道
- ➡ アクセス



ポイント
 標高1255メートルの山頂からは、
 西に大山、北に鳥取砂丘、南には瀬戸内
 海の島々や四国まで見渡せる。
 山頂の手前、標高1000メートル付近には、ド
 ウダンツツジの群落があり、6月上旬が見ごろ。

**伊邪那岐命・伊邪那美命にゆかりの霊峰
 県境にまたがる国定公園那岐山。**



法起菩薩堂
 松尾山の八号目に法起菩薩を
 祀るお堂がある。江戸後期、農
 業の害虫駆除に霊験あらたか
 な菩薩を大和国から勧請し、村
 の飢饉を救うとしたといわれる。
 町指定文化財

